

〔文献名〕 一九四四年四月一二日 朝鮮総督府道知事会議での政務総監訓示

〔年月日〕 1944年4月12日

〔発言者〕 朝鮮総督府政務総監

〔場所〕 朝鮮京城府

〔典拠〕 『京城日報』1944年4月13日付

〔原本所蔵機関〕 大韓民国国立中央図書館

〔注〕 「□□□労働供出の実情を検討するに労働に応ずべき者の志望の有無を無視して漫然下部行政機関に供出数を割当て下部行政機関も亦概して強制供出を敢てし□くして労働能率の低下を招来しつゝある欠陥は断じて是正せねばなりません」の部分は『毎日新報』の同日付では次のようになっている。

官□斡旋労働供出의 実状을檢討하건데 労働에□할者の 志望의有無를無□하고  
漫然히 下部行政機関에 供出數을 割當하여 下部行政機関도 또한 大体로  
強制供出을하기때문에 労働能率低下를 招來하고 있는欠陥은 断然코 是正하야한다

…  
(四) 労働動員に就て

既述の如き生産戦力の飛躍的増強を達成する上に労働対策の強化が極めて緊要なることは贅言を要せぬ所であります。鮮内需要の外国民動員計画に基く内地其他の地域に対する産業要員及び軍要員の送出亦増強を来し、今日猶相当弾力性を有する半島の人力が我が国戦力増強上最大の鍵となつてをるのであります。

内地移住朝鮮人労働者の取扱に付きましては従来一定期間に之を補充交替せしむることとし単身渡航せしむるを例とし来つたのであります。其後の成績に徴し実際の事情に鑑み今回之等労働者の家族呼寄せを認むるの途を拓き且其事情に応じ雇傭期間延長の勸奨を為さしめ得ることと致し、之と同時に其の処遇改善方に付種々折衝を重ねてをる次第であります。

□□□労働供出の実情を検討するに労働に応ずべき者の志望の有無を無視して漫然下部行政機関に供出数を割当て下部行政機関も亦概して強制供出を敢てし□くして労働能率の低下を招来しつゝある欠陥は断じて是正せねばなりません。

次に鮮内にあつては重点産業部門における労働の不足、移動率の夥多、労働者の勤労精神の低調その他企業者の労働に対する自覚の欠如等の諸条件が錯綜して増産上の隘路を形成してゐることは洵に遺憾とする処であります。本府に於ては曩に重要工場、事業場における労働者の賃金の引上、食糧の特配、作業衣その他必要物資の優先配給等労働者の勤労意欲阻害の物的条件の改善を図ると共に勤労管理要綱を示し、特に仕奉隊組織に依る事業主以下職員及労働者を一貫せる皇国勤労観の下に其の総力を結集して生産戦への挺身を要請する所あつたのであります。猶未だ労働の実体制を樹立するに至らない

過程にあるのであります

一面本府においては国策の急要に応じ軍需関係工場、事業場方面に対し近く徴用令による男子青壮年の動員を企図してゐるのであります、過半来再次に亘り実施したる工場、鉱山従業員の現員徴用は之が準備的前提をなすものであります、若し夫れ事業主に於て徴用を以て単なる移動防止策乃至は強権的なる労務充足方策と即断するが如き者あらんか応徴士をして生産意欲の振起、勤労奉公心の昂揚は到底望み難い所であります、斯くして動員したる労務者が工場、事業場に於ける勤労管理の拙劣に因り従来の如く移動乃至は農率低下を来すが如きことがあつては由々しき事態でありますから須らく事業主をして速やかに勤労管理刷新改善に積極的創意工夫を致さしめると共に、応徴士をして徴用の真義に徹せしめ以て、自ら陣頭指揮に奮い起つ事業主以下全従業員と共に相率いて旺盛なる責任感、最高なる犠牲的精神を以て戦力増強に邁進せしむるの態勢を整備せしめなければなりません、各位は如上の情況に鑑み今後益々重要性と困難とを加算すべき労務動員に関し最善の方途を講じ之が強力且つ円滑なる運営に特段の努力を傾けられんことを切望いたします